TOSHIBA　東芝入力マトリクスパネル取扱説明書

対象機種	APMX-201

このたびは東芝入力マトリクスパネルをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
お求めの入力マトリクスパネルを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになった後は本機のそばなど、いつも手元に置いてご使用ください。
- この取扱説明書および製品への表示では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図のなかに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警告

〔据付、設置、接続、移動にあたっての注意〕

■この機器はロッカー形非常放送アンプ専用の組み込みパネルです。この機器を組み込んで使用できる旨記載されている機器以外には使用できません。
指定以外の機器に組み込んで使用すると火災、感電、故障の原因となります。

■非常放送設備は消防法でその施工に関して定められています。法令に従って機器の選定、設置、配線、接続、点検を行ってください。

■表示された電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災、感電の原因となります。

■この機器は改造しないでください。
火災、感電の原因となります。

工事店様へ 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

⚠ 警告

〔使うときの注意〕

■この機器に水が入つたり、濡らさないようにご注意ください。
火災、感電の原因となります。

■万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると火災、感電の原因となります。すぐに放送を中止し、電源を断にして、煙が出なくなるのを確認してから、販売店に修理をご依頼してください。

⚠ 注意

〔据付、設置、接続、移動にあたっての注意〕

■機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、延長したりすると、発熱しやけどの原因となることがあります。

■電源コードや接続機器類のコードを抜くときは、コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

〔使うときの注意〕

■使用中に突然音が出なくなったなどの異常が生じたときは、すぐに電源を断にして、お近くの販売店にご相談ください。そのまま放置しておくと、大変危険です。

〔お手入れ、保守、点検にあたっての注意〕

■お手入れの際は、安全のため電源を断にしてから行ってください。

■この機器を非常放送設備に組み込んでご使用の場合は消防法で６ヶ月間に１回の定期点検が義務づけられています。点検の有資格者（甲種消防設備士）に６ヶ月間に１回の定期点検を依頼してください。

■１年に一度ぐらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。

目　次

機能概要…… 4
各部のなまえとはたらき、大きさ…… 4
設置のしかた…… 5
　ディップスイッチの設定変更…… 5
　音声入力レベルの設定変更（0dB→－20dB）…… 7
　各パネル間のケーブル接続…… 7
　増設出力端子盤のスピーカ回線の系統分け…… 9
　ロッカーへの取付け…… 9
　基本制御端子盤、増設制御端子盤への外線の接続……10
　非常業務操作パネルでのプログラムの書き込み……10
使いかた……11
調整のしかた……11
業務放送設備等に使用する場合……12
修理サービス……12
仕　様……12
ブロック図……13
付図１　８入力８出力時の各パネル間の接続図……14
付図２　８入力16出力時の各パネル間の接続図……15
付図３　16入力８出力時の各パネル間の接続図……16
付図４　16入力16出力時の各パネル間の接続図……17
付図５　増設出力端子盤のスピーカ回線の系統分けのしかた……18
付図６　増設出力端子盤の系統分け用ジャンパー線のカットのしかた……19
付図７　業務放送設備に設置する場合（ディップスイッチの設定のしかた）……20
付図８　業務放送設備に設置する場合（接続のしかた）……21

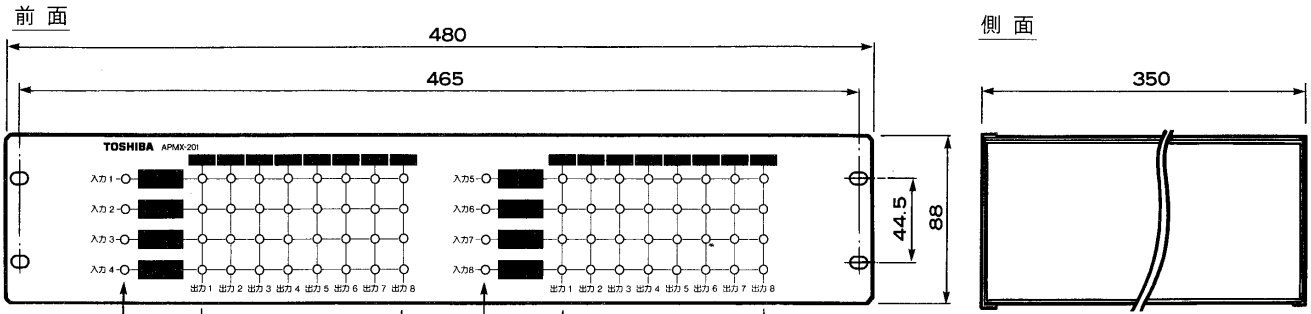
機能概要

■この機器は当社のロッカー形非常放送アンプ（ALF-2002R,1502Rシリーズ）に組み合わせて使用し、多元放送するためのパネルです。

- この機器１台で入力８系統を、あらかじめ設定された内容に従って８系統に出力できます。
- この機器は最大４台まで連結して使用することができ、16入力16出力まで拡張することができます。
- 同一出力を選択したときの各入力間の優先は、後取り優先または入力回路順優先（入力回路No.の少ない方が優先）のいずれかの設定ができます。
- 外部からの制御信号は制御端子盤(ATC-200R)の制御信号入力端子に接続して使用します。
- 優先や放送先の設定等は、非常業務操作パネルのマイク扉内のテンキースイッチを操作して行います。

各部のなまえとはたらき、大きさ

単位：mm



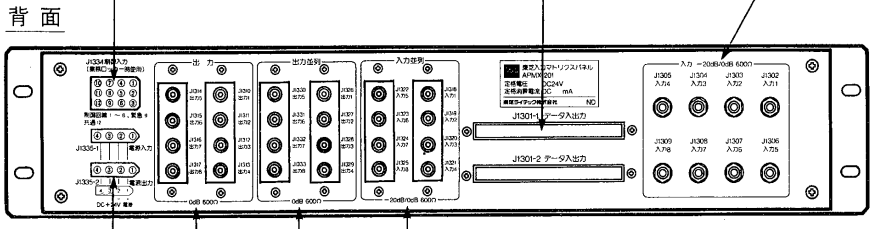
①音声入力表示灯
- 接続している機器から音声が入力されると、点灯します。

②制御動作表示灯
- マトリクス制御しているとき制御されているポイントが点灯します。

③制御入力コネクタ
- ハード制御用制御入力コネクタです。（非常放送設備では使用しません。）

④データ入出力コネクタ
- データライン(バスライン)を接続するコネクタです。

⑤音声入力ジャック（φ6.3, 3P）
- 接続する機器の音声出力を接続するジャックです。



⑨入力並列コネクタ（ピンジャック）
- 入力マトリクスパネルを連結して使用するときの入力カスケード接続用ジャックです。

⑥電源入力コネクタ
- 電源DC24Vの入力コネクタです。

⑦音声出力ジャック（ピンジャック）
- 本機の音声出力ジャックで、電力増幅器の音声入力ジャックに接続します。

⑧出力並列ジャック（ピンジャック）
- 入力マトリクスパネルを連結して使用するときの出力カスケード接続用ジャックです。

設置のしかた

●ロッカー形非常放送アンプ(ALF-1502R、2002Rシリーズ)に組み込んで設置する場合は、次の手順で行なってください。

ご注意

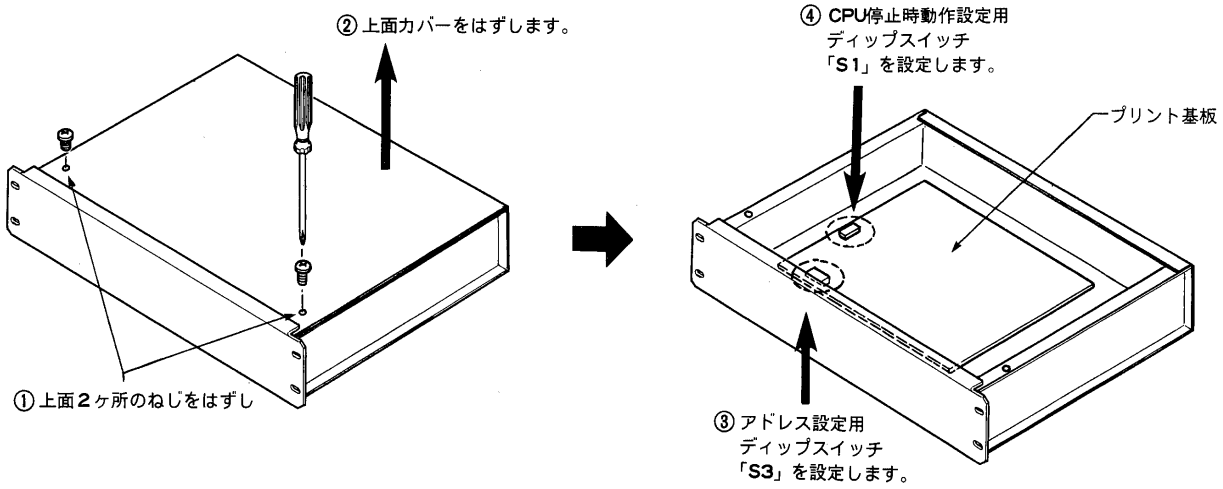
上記以外の業務用放送設備に設置する場合は〝業務放送設備等に使用する場合〟（P.12）を参照してください。

設置の手順

1 ディップスイッチの設定変更（入力マトリクスパネルを2台以上連結して使用するときに必要です。1台の場合は不用です。）
2 音声入力レベルの設定変更（0dB→－20dB）
3 各パネル間のケーブル接続
4 増設出力端子盤のスピーカ回線の系統分け
5 ロッカーへの取付け
6 基本制御端子盤、増設制御端子盤への外線の接続（外部制御入力信号を接続します。）
7 非常業務操作パネルでのプログラムの書き込み（スピーカ回線やPAの系統分け、外部制御入力端子の設定等を行います。）

1 ディップスイッチの設定変更

●入力マトリクスパネルを2台または、4台連結接続する場合は、パネル内部のディップスイッチの設定の変更が必要です。
●入力マトリクスパネルが1台のときは、設定変更は不用です。(出荷時の設定のままご使用できます)。
●次の手順で設定します。

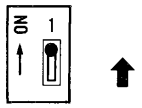
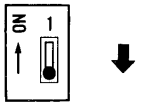


CPU停止時の制御動作の設定…ディップスイッチ「S1」の設定

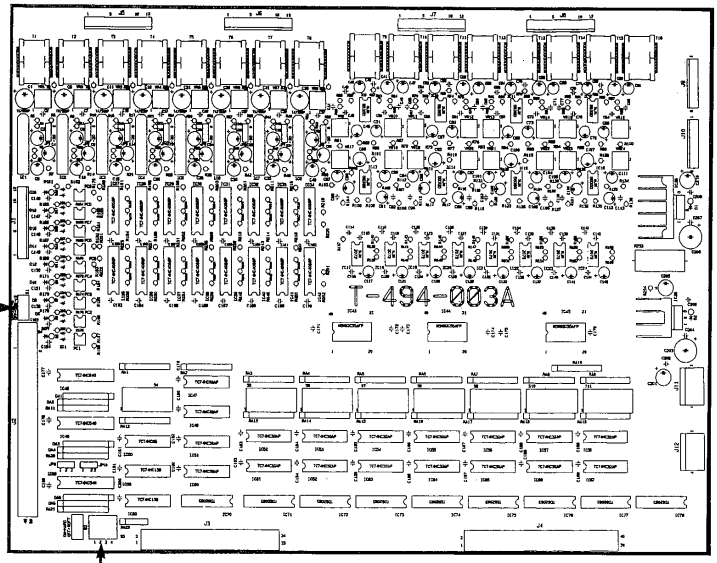
- CPU停止時(非常業務操作パネルのコンピュータ制御スイッチOFF時)の動作を設定します。
- 出荷時は「ON」に設定されています。アドレス6、8のパネルは設定変更不用です。
- 「アドレス7、9」のパネルを「OFF」に設定変更します。

…アドレスは右下図の「アドレス説明図」をご参照ください。…

ON/OFFの設定ポジション

パネル	ディップスイッチ「S1」の設定
アドレス6、8	
アドレス7、9	

内部プリント基板



⬇ 前面パネル側

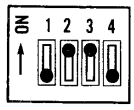
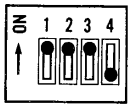
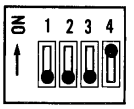
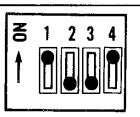
アドレスの設定…ディップスイッチ「S3」の設定

- 入力マトリクスパネルを2台または、4台接続する場合はアドレスの設定変更をします。
  (出荷時はアドレス「6」に設定)

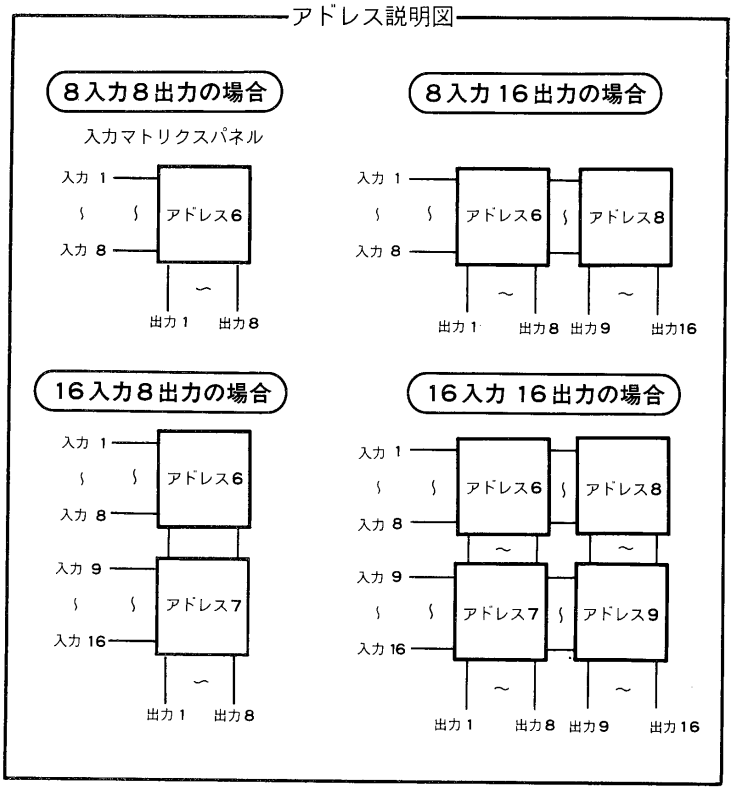
…アドレスは右下図の「アドレス説明図」をご参照ください。…

- 入力マトリクスパネルが1台のときは、設定変更は不用です。

アドレスの設定ポジション

アドレス	ディップスイッチ「S3」の設定
6 (出荷時)	
7	
8	
9	

アドレス説明図



＜生産完了 2006年02月09日＞
APMX-201 (6／21)

2 音声入力レベルの設定変更（0dB→−20dB）

- 接続機器の音声出力レベルが約−20dB以下の場合、入力レベルを「0dB」→「−20dB」に切換えます。
- 切り換えるときは、パネル内部のジャンパーソケットを差しかえます。

…ジャンパーソケットの差しかえかたは、P11の「調整のしかた」①入力切りかえジャンパーの項をご参照ください。…

3 各パネル間のケーブル接続

- **マトリクスパネル1台の場合は次の接続が必要です。**…P.7の「(8入力8出力)の場合」の項参照。

電源入力コネクタ……他のパネル（非常業務操作パネル APE-520R等）の電源出力コネクタと接続します。
データ入力コネクタ……他のパネル（非常業務操作パネル等）のデータ入出力コネクタと接続します。

音声入力ジャック……(1)入力1は必ず非常業務操作パネルのライン出力と接続します。
(2)その他の入力は接続する機器の音声出力と接続します。

音声出力ジャック……各出力系統の電力増幅器の音声入力に接続します。

- **入力マトリクスパネルを2台または4台連結する場合は、次の接続も追加で必要になります。**…P.8～9の「(8入力16出力)の場合、(16入力8出力)の場合、(16入力16出力)の場合」の項参照。

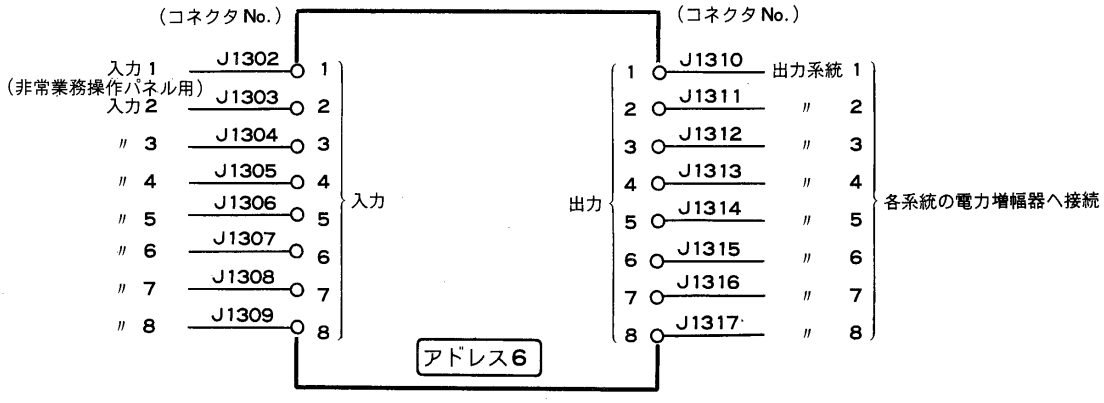
入力並列ジャック……9～16出力とする場合に入力マトリクスパネル間で接続します。
出力並列ジャック……9～16入力とする場合に入力マトリクスパネル間で接続します。

ご注意

- 音声入力、出力の接続プラグ（ホーンプラグ、ピンプラグ）は付属していませんのでご用意願います。（電源用、データ用の特殊コネクタはコード付で付属しています。）
- 入力マトリクスパネルを連結してご使用の場合は別売の接続用コネクタキット（形名：APMX-K201）（入力マトリクスパネル1台につき1個必要）を用意しておりますのでお求めください。

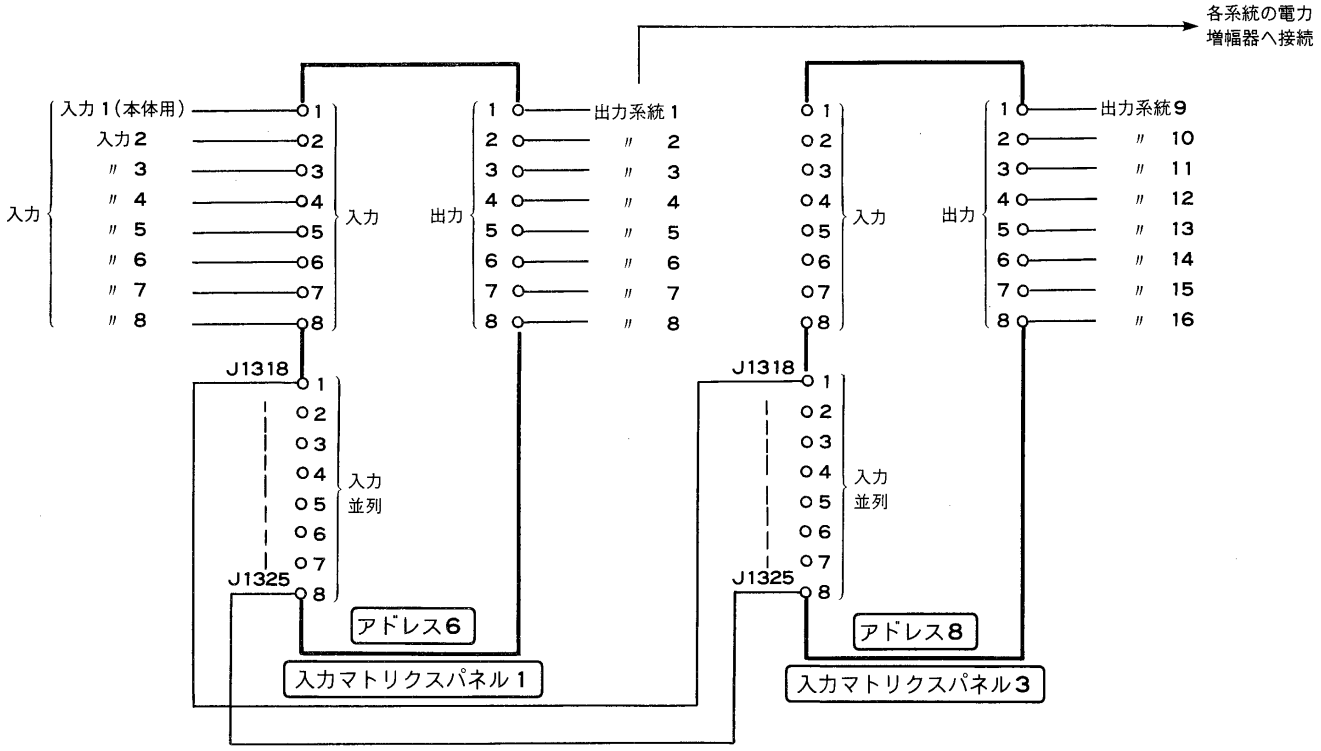
(入力マトリクスパネル1台(8入力8出力))の場合

- 音声の入出力の接続は下図のとおりです。
- 各パネル間の接続は付図1（P.14）を参照してください。
- 別売の接続用コネクタキット（形名：APMX-K201）をご利用ください。（必要数…1）



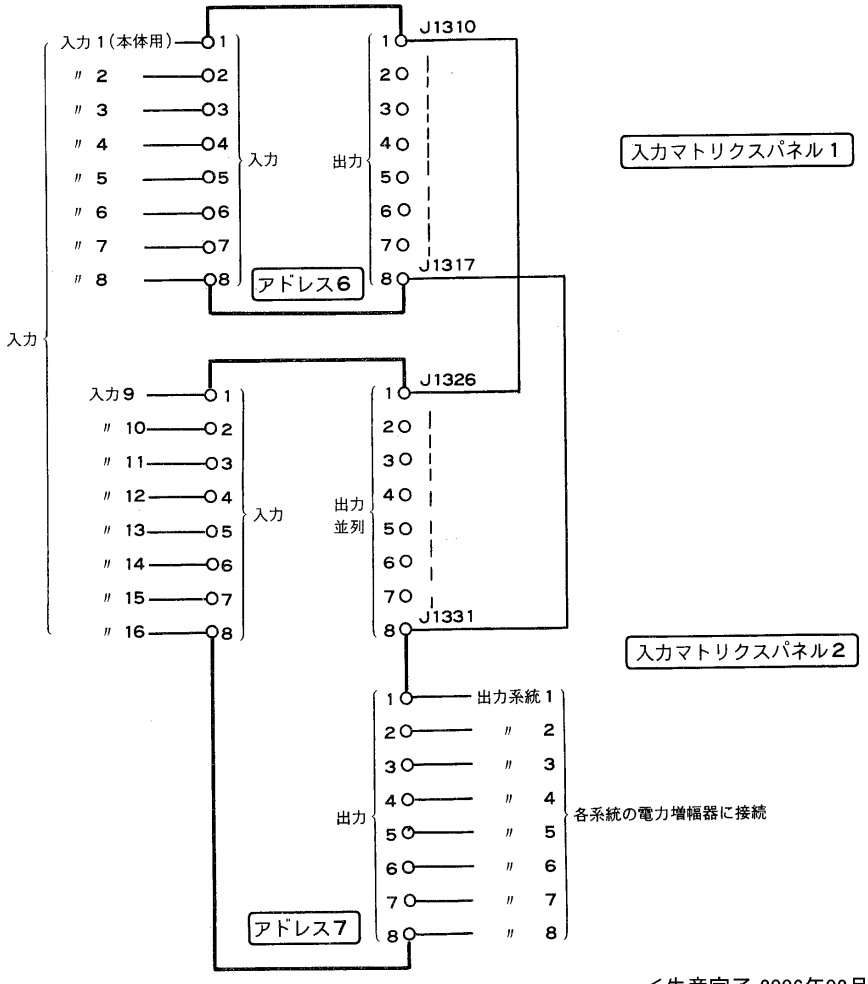
入力マトリクスパネル２台(８入力16出力)の場合

- 出力を16出力まで拡張する場合は本パネルを２台使用し、下図のように接続します。(８入力16出力)
- 各パネル間の接続は付図２（P.15）を参照してください。
- 別売の接続用コネクタキット（形名：APMX-K201）をご利用ください。(必要数…２)



入力マトリクスパネル２台(16入力８出力)の場合

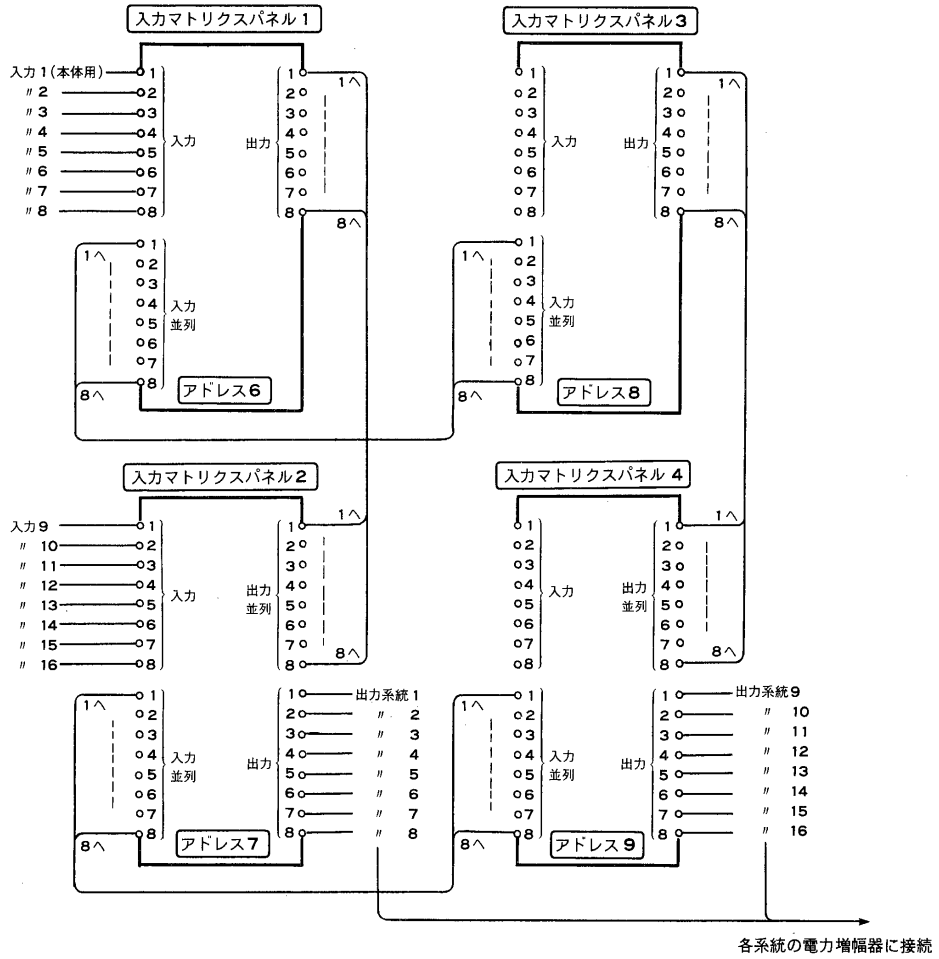
- 入力を16入力まで拡張する場合は本パネルを２台使用し、下図のように接続します。(16入力８出力)
- 各パネル間の接続は付図３（P.16）を参照してください。
- 別売の接続用コネクタキット（形名：APMX-K201）をご利用ください。(必要数…２)



＜生産完了 2006年02月09日＞
APMX-201 (8／21)

入力マトリクスパネル4台(16入力16出力)の場合

- 入力を16入力、出力を16出力まで拡張する場合は本パネルを4台使用し、下図のように接続します。(16入力16出力)
- 各パネル間の接続は付図4 (P.17) を参照してください。
- 別売の接続用コネクタキット (形名：APMX-K201) をご利用ください。(必要数… 4)

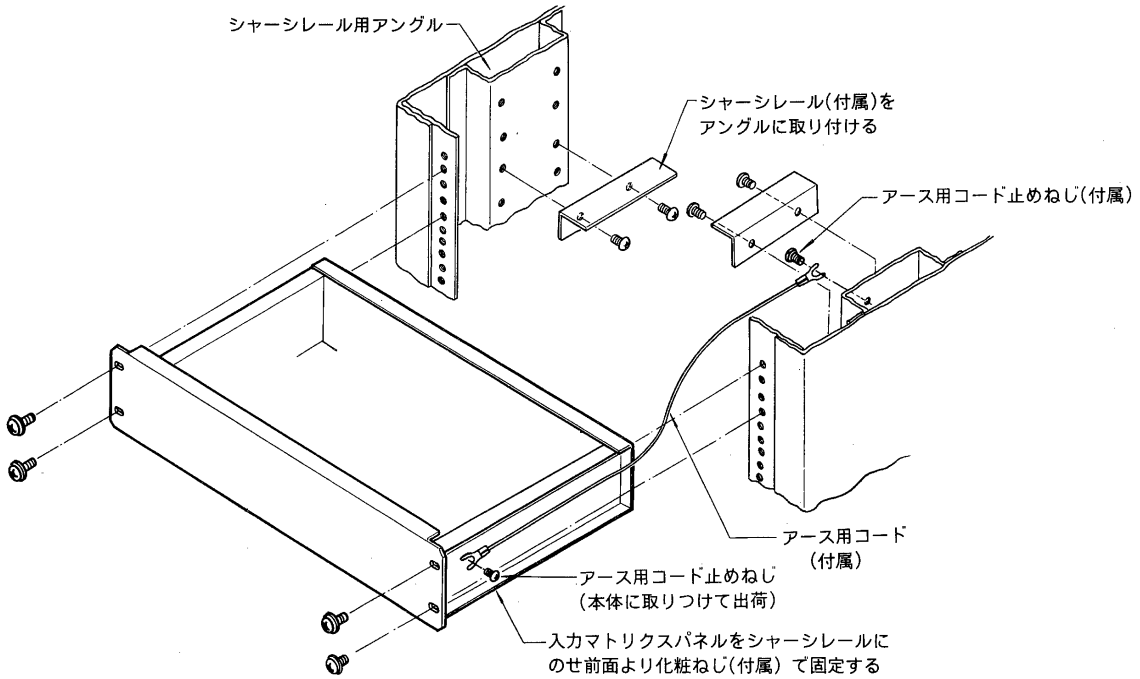


4 増設出力端子盤のスピーカ回線の系統分け

- 増設出力端子盤 (ATBZ-220R、210R) のスピーカ回線を放送系統毎に分割する必要があります。
- その分割した系統毎に電力増幅器の出力を接続してください。
- スピーカ回線の系統分けのしかたについては、付図5 、 6 (P.18、19) を参照してください。

5 ロッカーへの取付け

- 下図のようにロッカーへ取り付けます。



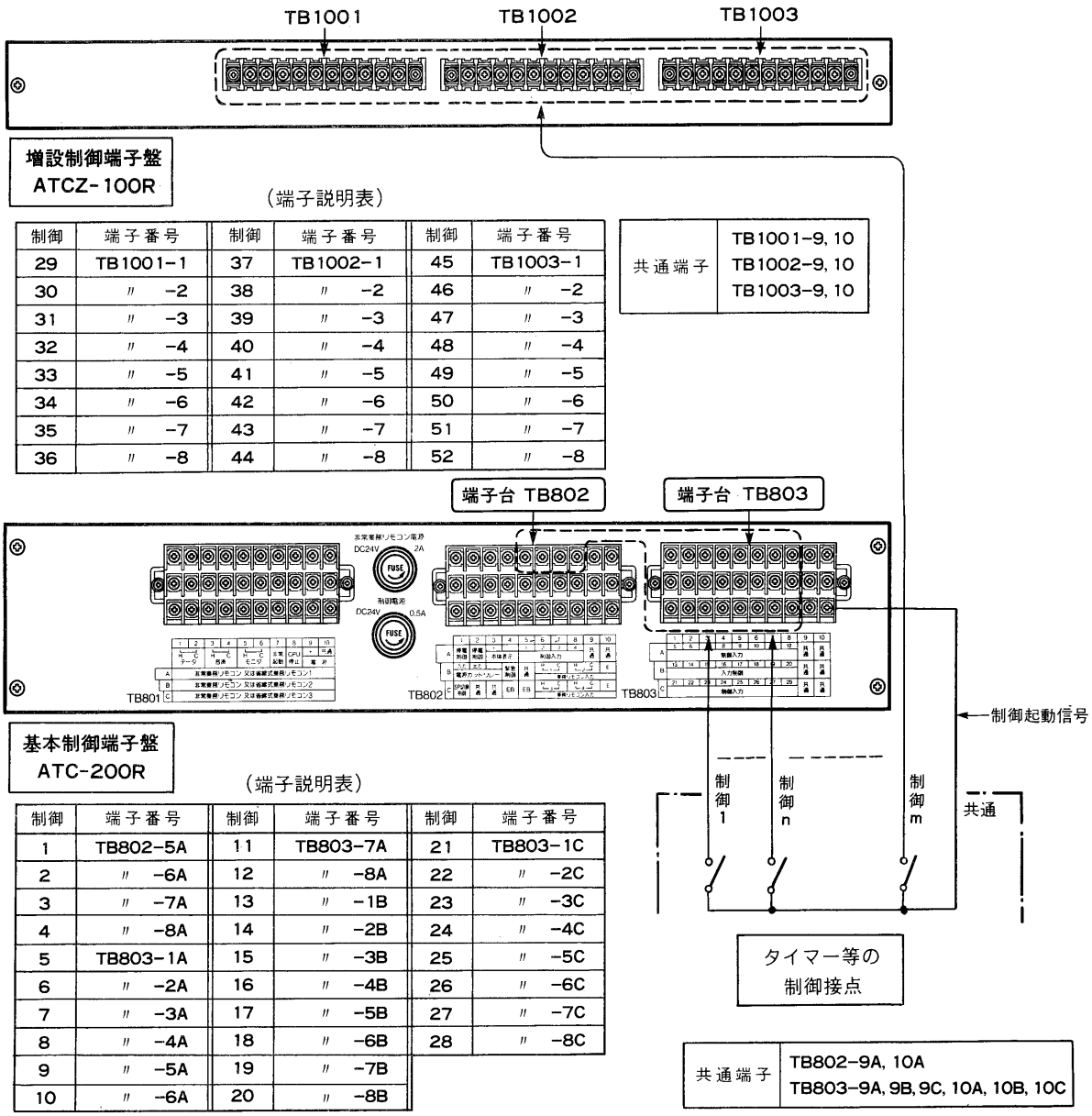
ご注意 ●本機の取付ピッチはEIA規格寸法となっていますのでJIS 規格ラックへの取り付けはできません。

<生産完了 2006年02月09日>

6 基本制御端子盤、増設制御端子盤への外線の接続

●下図のとおり、制御端子盤の制御入力端子と共通端子の間に制御起動信号(無電圧メイク信号)を接続します。

●メイク信号が入力されているあいだ放送が可能です。



(端子説明表)

制御	端子番号	制御	端子番号	制御	端子番号
29	TB1001-1	37	TB1002-1	45	TB1003-1
30	〃 -2	38	〃 -2	46	〃 -2
31	〃 -3	39	〃 -3	47	〃 -3
32	〃 -4	40	〃 -4	48	〃 -4
33	〃 -5	41	〃 -5	49	〃 -5
34	〃 -6	42	〃 -6	50	〃 -6
35	〃 -7	43	〃 -7	51	〃 -7
36	〃 -8	44	〃 -8	52	〃 -8

共通端子	TB1001-9, 10 TB1002-9, 10 TB1003-9, 10

(端子説明表)

制御	端子番号	制御	端子番号	制御	端子番号
1	TB802-5A	11	TB803-7A	21	TB803-1C
2	〃 -6A	12	〃 -8A	22	〃 -2C
3	〃 -7A	13	〃 -1B	23	〃 -3C
4	〃 -8A	14	〃 -2B	24	〃 -4C
5	TB803-1A	15	〃 -3B	25	〃 -5C
6	〃 -2A	16	〃 -4B	26	〃 -6C
7	〃 -3A	17	〃 -5B	27	〃 -7C
8	〃 -4A	18	〃 -6B	28	〃 -8C
9	〃 -5A	19	〃 -7B		
10	〃 -6A	20	〃 -8B		

共通端子	TB802-9A, 10A TB803-9A, 9B, 9C, 10A, 10B, 10C

●基本制御端子盤の制御入力端子は、出荷時、業務リモコン等の他機器入力用にプログラム設定されていますので、入力マトリクス用としてご使用の場合は設定変更(書き込み)が必要です。

(東芝ロッカー形非常放送アンプ設置要領書　P.51参照
(ALF-1502R、2002Rシリーズ))

●マトリクスパネルを接続した場合は、非常業務操作パネルで、プログラムの書き込み設定を必ずしてください。

●プログラム設定項目は、次の7のとおりです。

●東芝ロッカー形非常放送アンプ書き込みのしかた(P.25～27、18～20)を参照してください。
(ALF-1502R、2002Rシリーズ　Ver. A)

7 非常業務操作パネルでのプログラムの書き込み内容

①入力マトリクスパネルの設定(書き込みのしかたP.25参照)
- 入力マトリクスパネルの『入出力構成』を設定します。

②各PA(電力増幅器)グループに対応した放送先の設定(書き込みのしかたP.25、26参照)
- 各PAグループに対応する放送回線を設定します。

③優先順位の設定(書き込みのしかたP.26、27参照)
- 入力マトリクスパネルの各音声入力間の優先を、「入力回路順」(入力回路NO.の小さい方が優先)から「後取り優先」に変更できます。
- ただし、音声入力回路1は、非常業務操作パネルの固定入力となり、最優先となります。

④外部制御入力端子の設定(書き込みのしかたP.18～20参照)
- 入力マトリクスパネルの各音声回路に対応した制御入力について放送先を設定します。

<生産完了 2006年02月09日>
APMX-201 (10 / 21)

使いかた

放　送　先

●マトリクス制御内容（放送先の設定等）は、非常業務操作パネルで 書き込み設定した内容に従って放送先に放送されます。

●書き込みのしかたは、〝ロッカー形非常放送アンプの書き込みのしかた〟をご参照ください。

起　　動

●制御起動信号（メイク信号）が基本制御端子盤（ATC-200R）増設制御端子盤（ATCZ-100R）の制御入力に入っている間および本体で手動選択されている間動作し、制御されたポイントの〝動作表示灯〟が点灯します。

音　　声

●接続された機器から音声が入ると、入っている間音声入力表示灯が点灯します。上記（起動）がかかると選択された系統に音声が出力されます。

調整のしかた

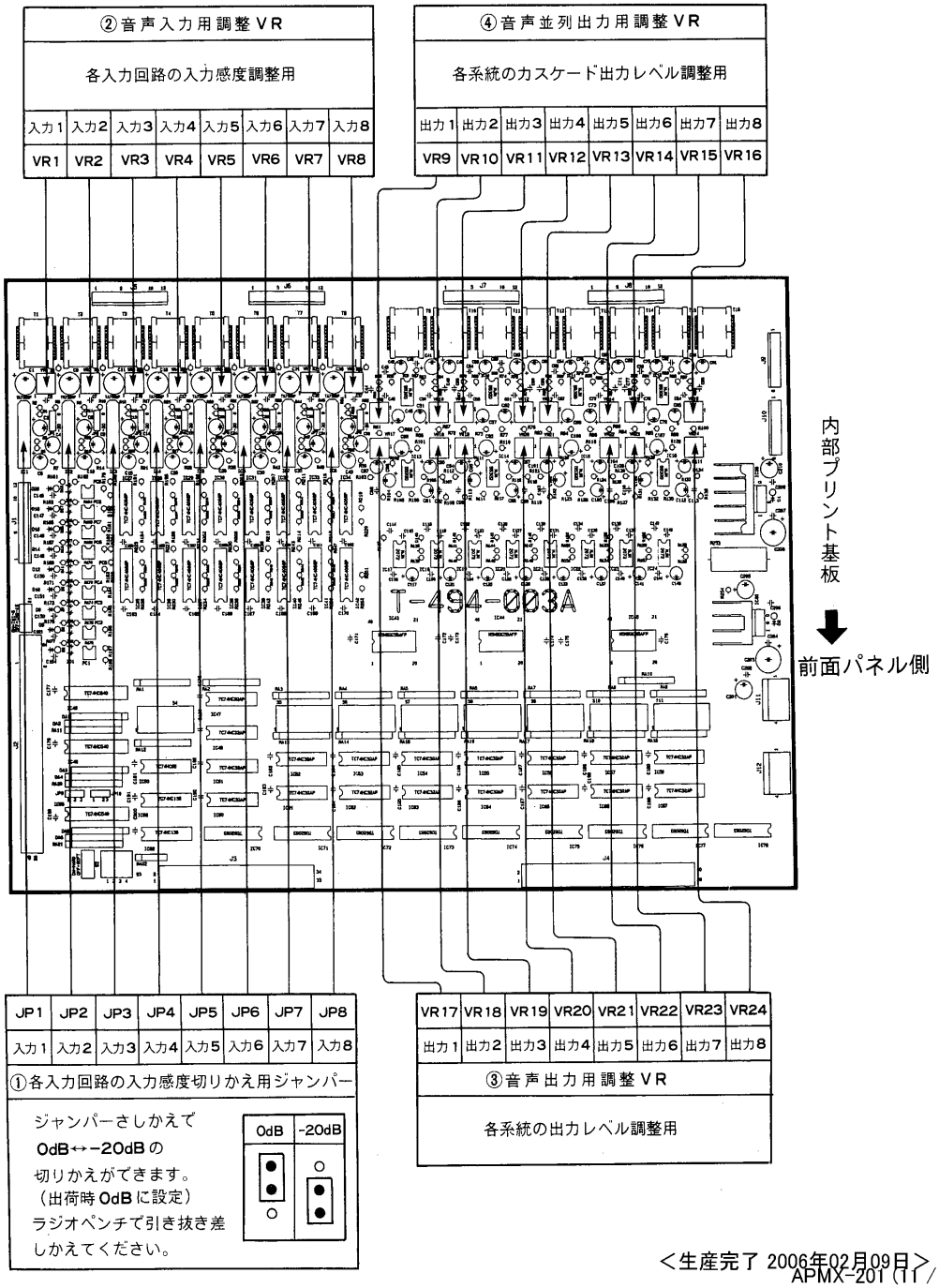
●必要に応じてブロック図をご参照の上、調整してください。

①接続された機器の出力レベルが約－20dB以下で小さい場合には各入力回路の入力感度をジャンパー切換で０dB→－20dBに変更できます。（下記①印）

②各入力回路の入力感度は半固定ボリュームで微調整できます。（下記②印）

③各系統の出力レベルを半固定ボリュームで調整できます。（下記③印）

④各系統のカスケード出力のレベルを半固定ボリュームで調整できます。（下記④印）



業務放送設備等に使用する場合

●業務放送設備と組み合わせてご使用の場合は当社までご相談ください。

概 要

●外部からの制御信号は制御入力コネクタ（ハード制御用）に接続します。
●各入力回路をどの出力系統に出力するかの設定は１通りの設定しかできません。（内部ディップスイッチで設定）
●制御入力コネクタに制御信号が入っている間出力されます。同一出力先に複数の入力回路が設定されていると、制御が同時にかかった場合出力はミキシングとなります。
●マトリクスパネルを最大４台接続することにより、16入力16出力まで拡張できます。
●電源として、制御電源パネルAPD-201が必要です。
●設置については付図７、８（P.20、21）をご参照ください。

修理サービス

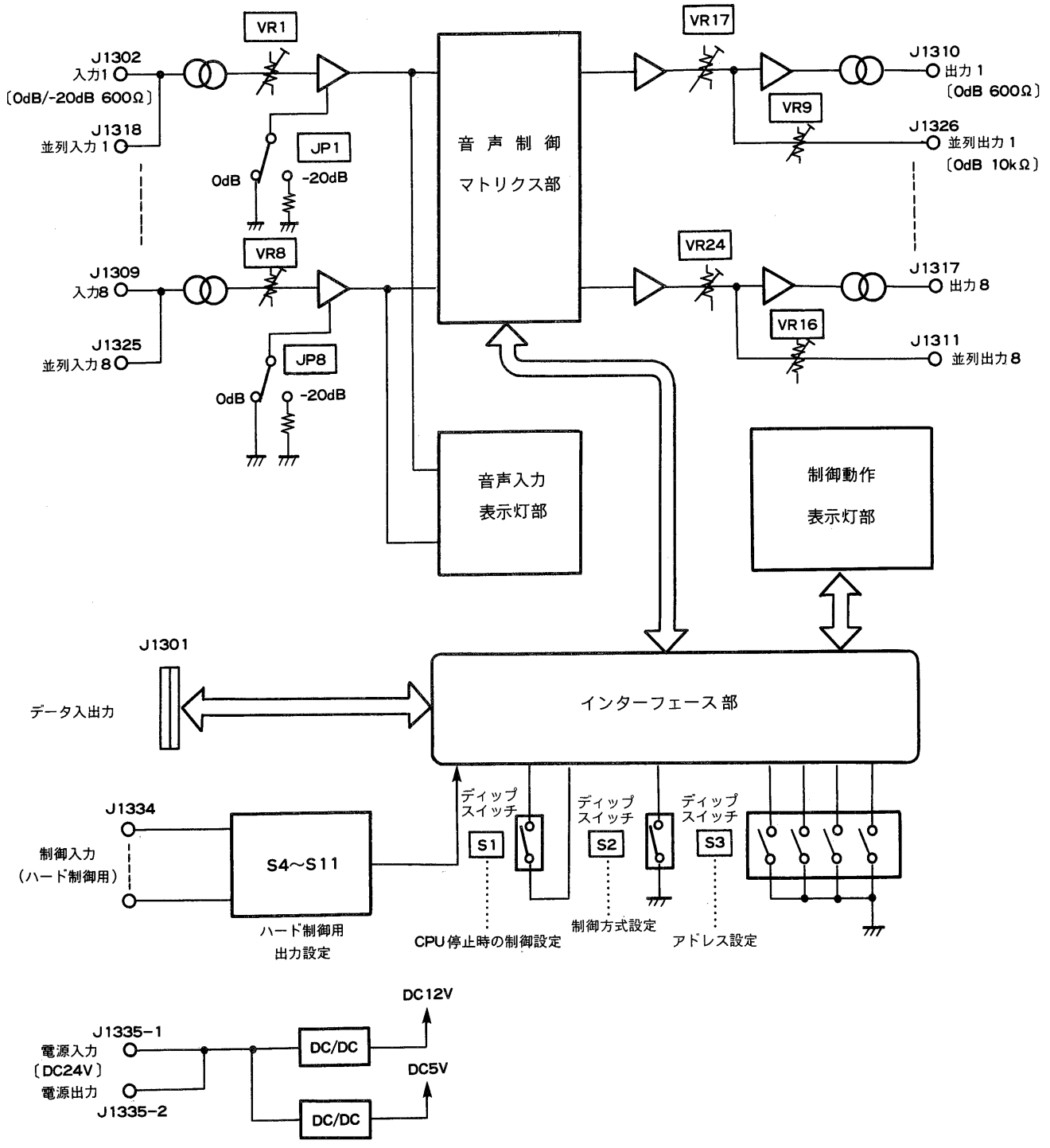
ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、お買いあげの販売店またはお近くの東芝ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは形名（ APMX-201 ）およびお買いあげの時期をお忘れなくお知らせください。

仕 様

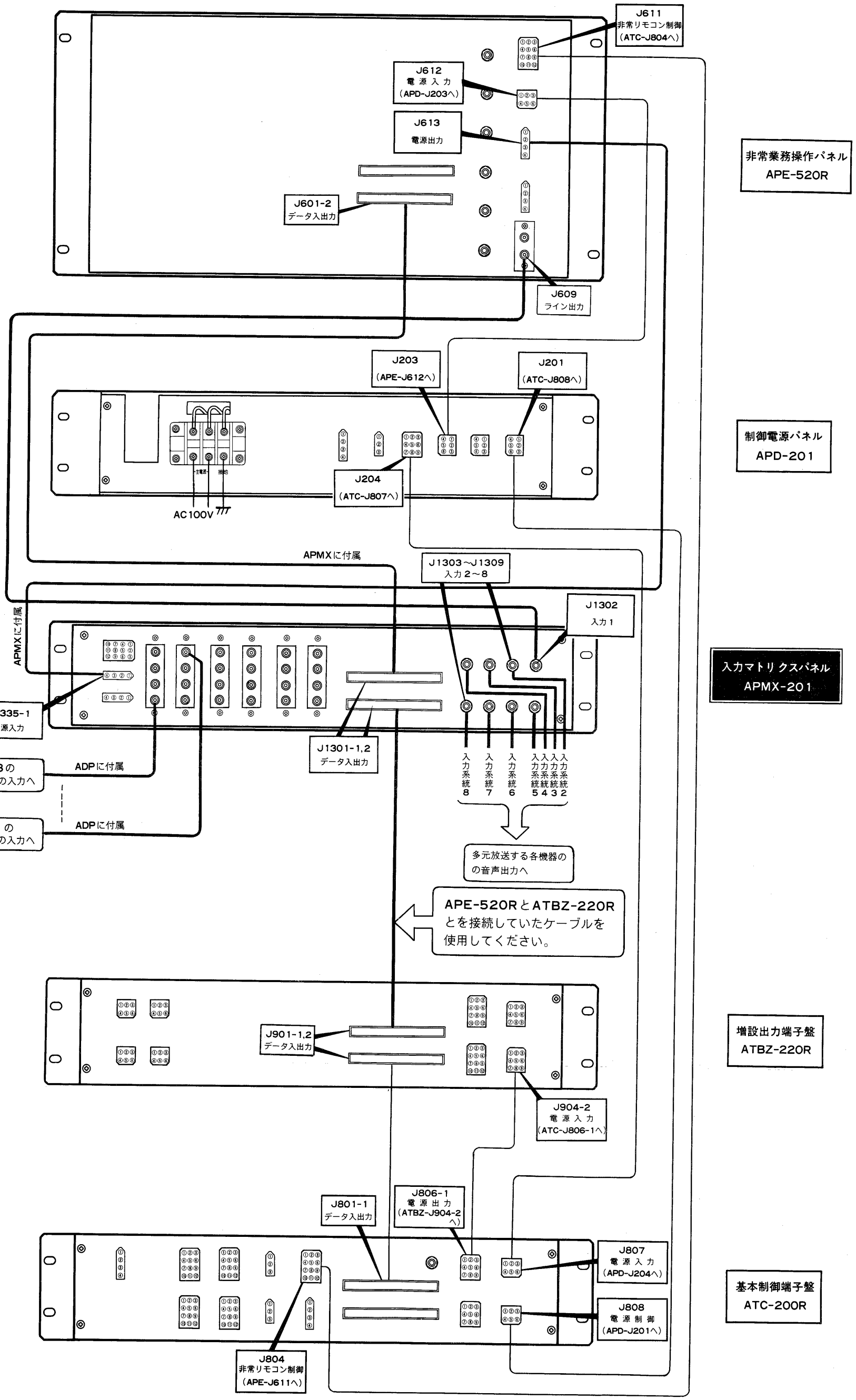
電源		DC24V（制御電源パネルより供給）
消費電流		DC250mA
周波数特性		50Hz～15KHz±3dB以内
ひずみ率		0.5%以下（1KHz定格出力時）
S／N		60dB以上
入力		0dB/－20dB切換　600Ω　平衡　８回路（３極大形単頭ジャック）
連結用並列入力		0dB/－20dB切換　600Ω　平衡　８回路（ピンジャック）
出力		0dB（内部VR付）600Ω　平衡　８回路（ピンジャック）
連結用並列出力		0dB（内部VR付）10kΩ不平衡　８回路（ピンジャック）
制御方式		CPU制御
表示		音声入力表示灯　８回路（緑色LED） 制御動作表示灯　64回路（緑色LED）
外観	材質	鋼板
	塗装	メラミン焼付塗装　塗装色：前面パネル …ブラウングレー（マンセル10YR4/1近似色） ケース、リアパネル…白色
使用周囲温度		０℃～40℃
外形寸法		幅：480mm　高さ：88mm　奥行：350mm（突起部を除く）
質量		約５kg
その他		制御入力：８回路（無電圧メイク接点入力） （業務用放送設備用）
付属品		入力１用コード（大形単頭プラグ、ピンプラグ付１ｍ）…… 1 バスライン用コード（両端50Pコネクタ付１ｍ）…… 1 電源用コード（両端4Pコネクタ付１ｍ）…… 1 アース用コード（両端Y形圧着端子付 40cm）…… 1 取付化粧ねじ（Ｍ５×12）…… 4 シャーシレール…… 2 シャーシレール取付ねじ（Ｍ４×８）…… 4 アース用コード止めねじ（Ｍ４×８）…… 1 取扱説明書…… 1 東芝お客様ご相談センター一覧表…… 1

＜生産完了 2006年02月09日＞

ブロック図



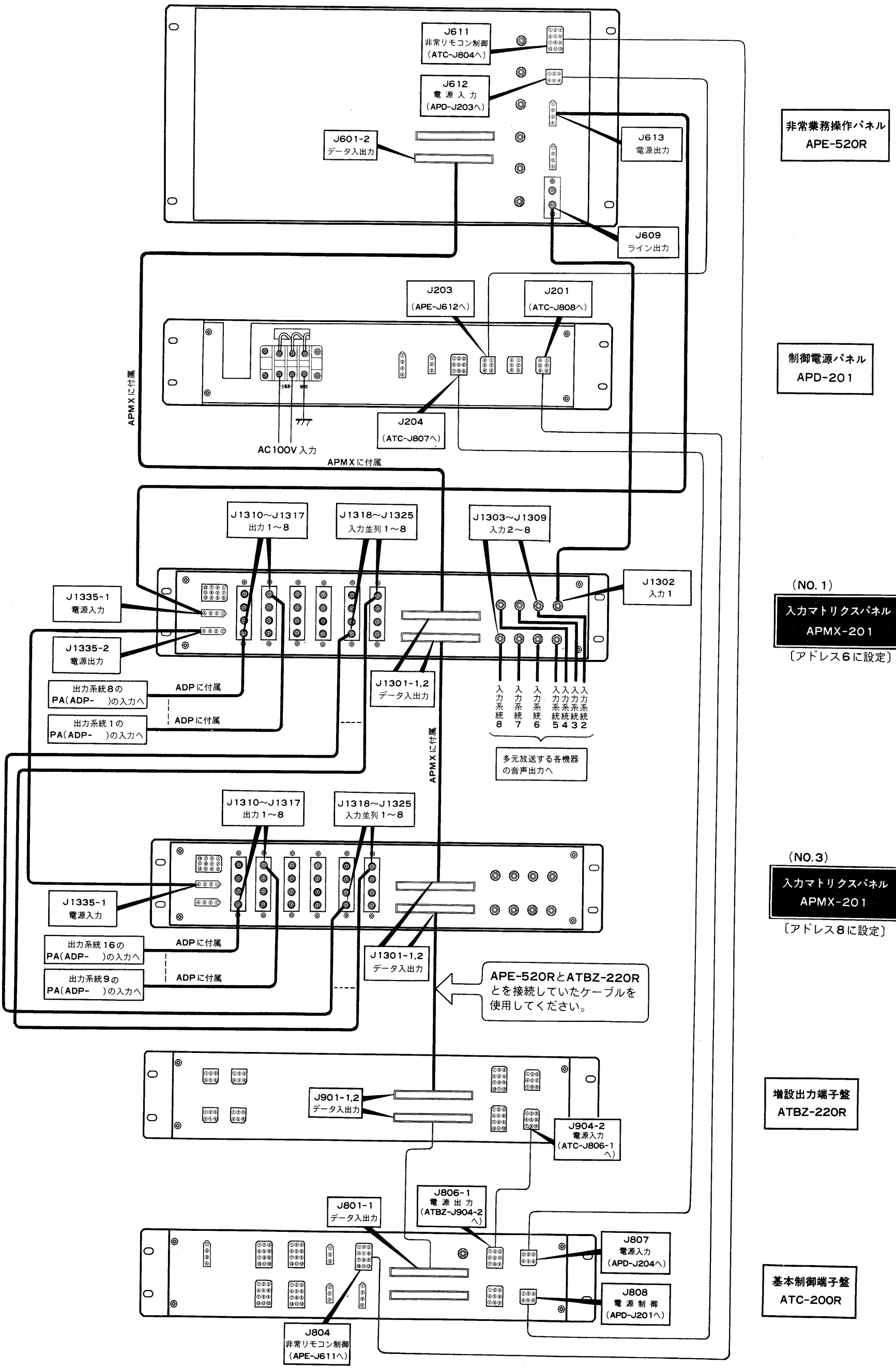
東芝ライテック株式会社 システム事業部　〒140　東京都品川区南品川2丁目2番13号（南品川JNビル）TEL（03）5463−8779



＊細い線(——) で示す各パネル間の接続はロッカー形非常放送アンプ用の出荷時に接続されています。
＊太い線(━━) で示す各パネル間の接続が入力マトリクスパネルの組み込みに従って接続の必要なヶ所です。

付図１　８入力８出力 時の各パネル間の接続図

＜生産完了 2006年02月09日＞

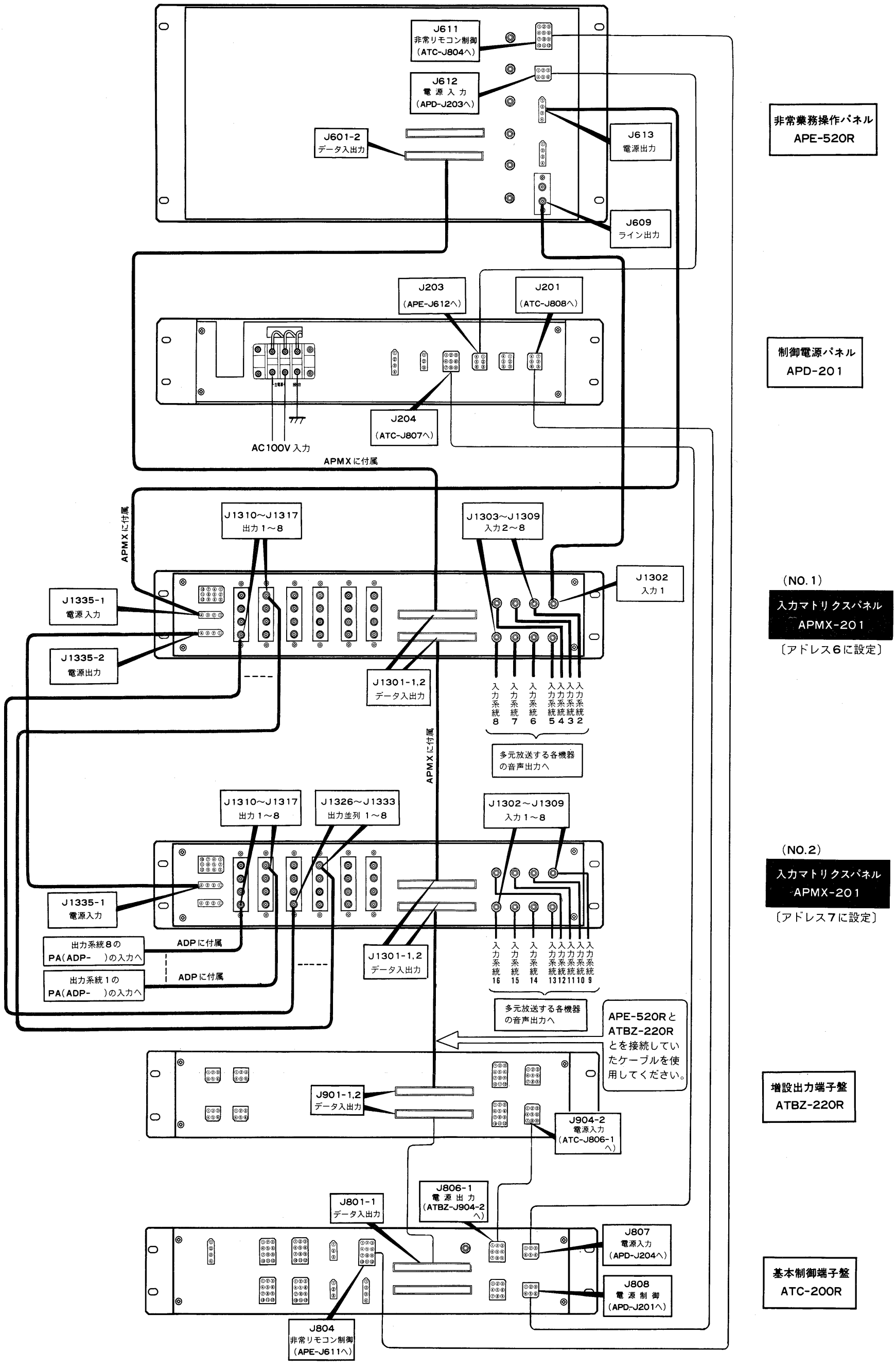


＊細い線(——) で示す各パネル間の接続はロッカー形非常放送アンプ用の出荷時に接続されています。

＊太い線(━━) で示す各パネル間の接続が入力マトリクスパネルの組み込みに従って接続の必要なヶ所です。

付図2 8入力16出力 時の各パネル間の接続図

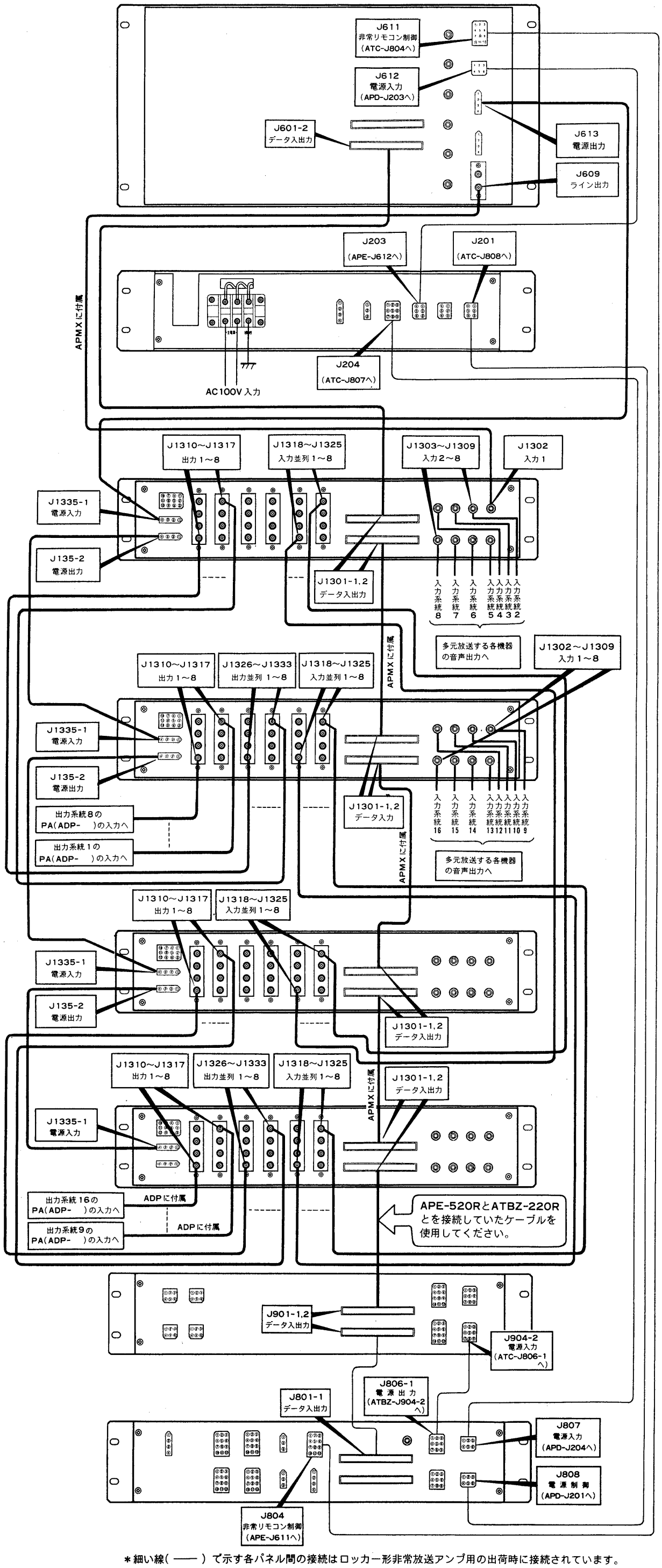
<生産完了 2006年02月09日>



＊細い線(——) で示す各パネル間の接続はロッカー形非常放送アンプ用の出荷時に接続されています。
＊太い線(━━) で示す各パネル間の接続が入力マトリクスパネルの組み込みに従って接続の必要なヶ所です。

付図３ 16入力8出力 時の各パネル間の接続図

＜生産完了 2006年02月09日＞



＊細い線(——) で示す各パネル間の接続はロッカー形非常放送アンプ用の出荷時に接続されています。

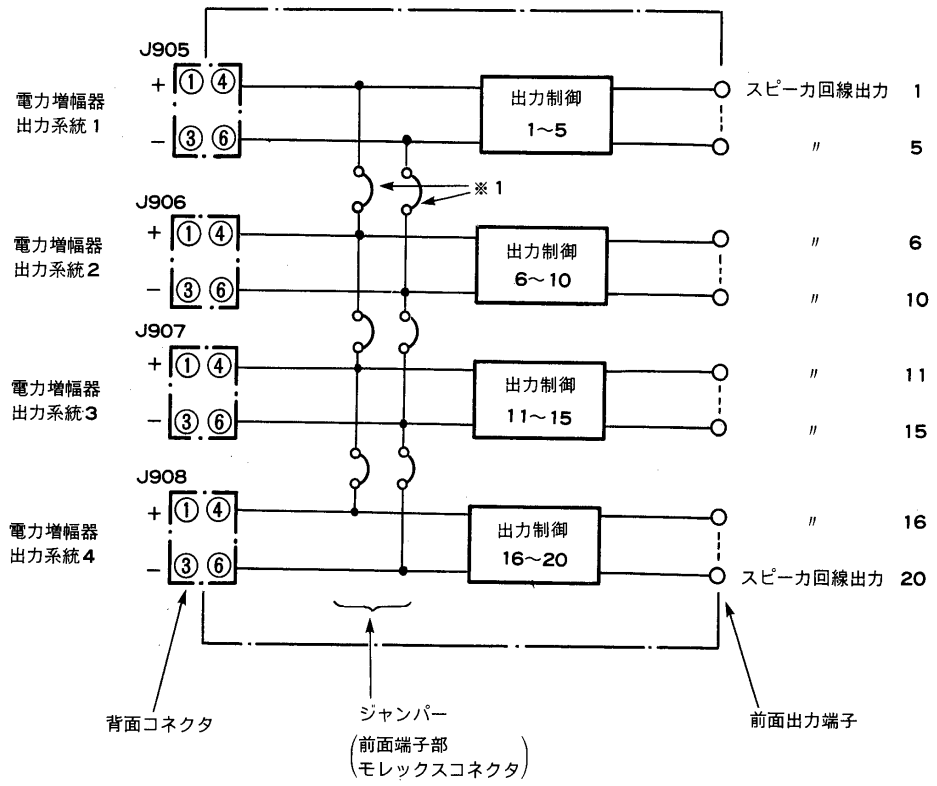
＊太い線(━━) で示す各パネル間の接続が入力マトリクスパネルの組み込みに従って接続の必要な箇所です。

付図4　16入力16出力 時の各パネル間の接続図

＜生産完了 2006年02月09日＞

付図5　増設出力端子盤のスピーカ回線の系統分けのしかた

●増設出力端子盤のスピーカ回線は出荷時は端子盤内で下図のように接続されていますが、ジャンパーをカットすることにより5回線単位で系統分けすることができます。



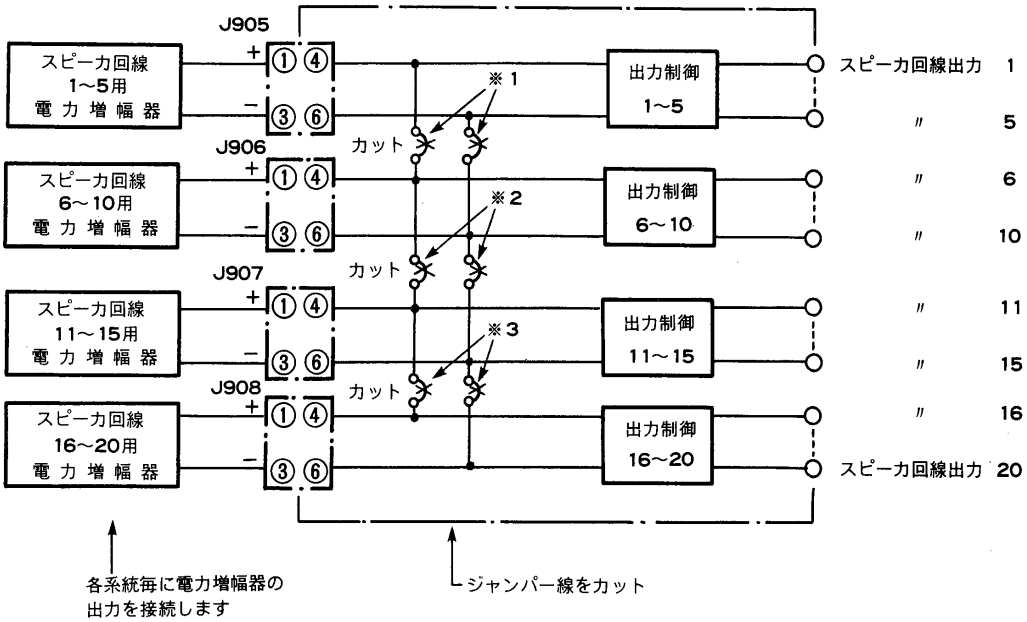
ご注意　J906～908接続用ハウジングは、接続用コネクタキット（形名：APMX-K201）（別売）に含まれています。

●スピーカ回線のチャンネル（系統）分けの内容に従ってジャンパー線をカットします。
たとえば※1印のジャンパー線をカットすると

……（スピーカ回線1～5）と（スピーカ回線6～20）……が分離され、それぞれの系統の電力増幅器の出力を

（スピーカ回線1～5）→ J905
（スピーカ回線6～20）→ J906～J908のどれか ……に接続します。

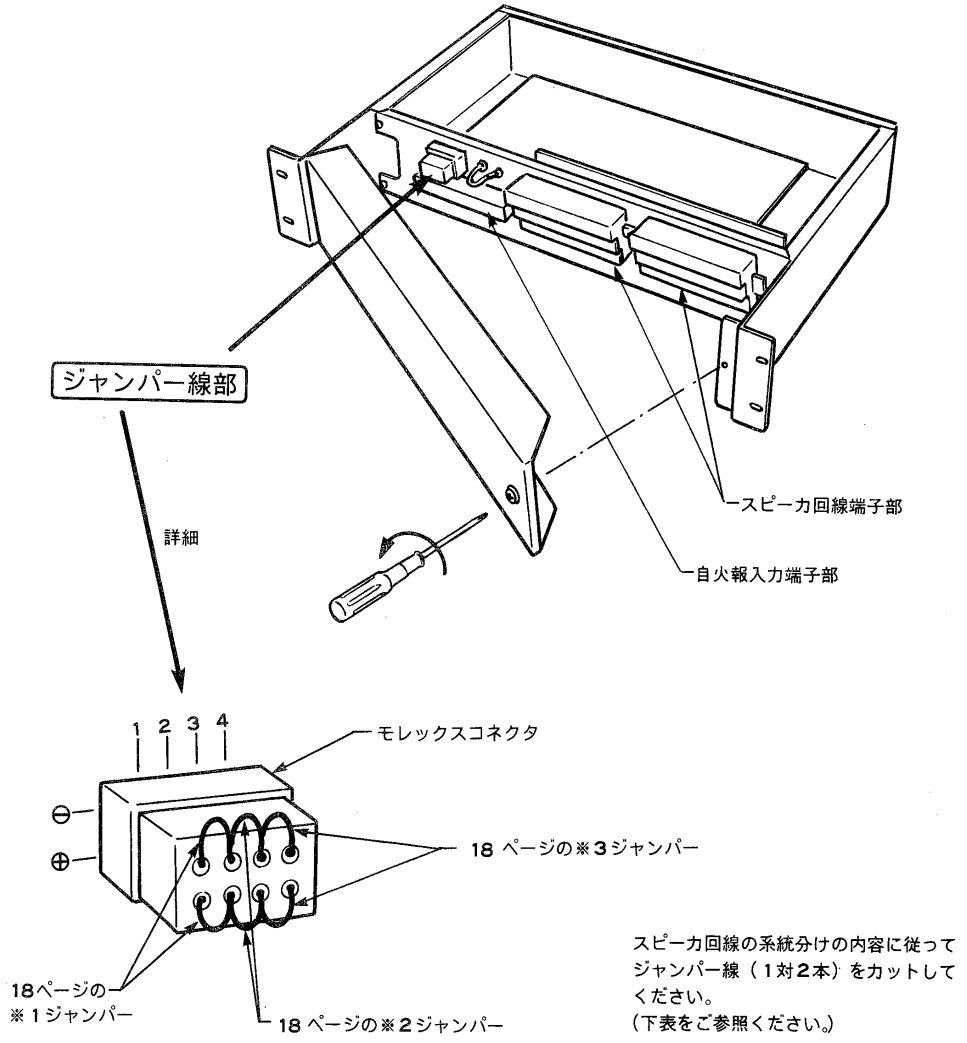
下図のように※1～※3のジャンパー線をすべてカットすると、スピーカ回線は5回線ずつの4系統に分離され、J905～J908の各コネクタに各系統の電力増幅器の出力を接続します。



＜生産完了 2006年02月09日＞

付図６　増設出力端子盤の系統分け用ジャンパー線のカットのしかた

●18ページのジャンパー※１～※３は増設出力端子盤の端子部の下図の位置にあります。



カットするジャンパー	系統分けされる内容	備　　考
※1	(スピーカ回線１～５)と(スピーカ回線６～10または20)に２分割	ATBZ-210Rはジャンパー※１のみでジャンパー※２～３はありません。
※2	(スピーカ回線１～10)と(スピーカ回線11～20)に２分割	
※3	(スピーカ回線１～15)と(スピーカ回線16～20)に２分割	
※1と※2	(スピーカ回線１～５)と(スピーカ回線６～10)と (スピーカ回線11～20)に３分割	
※2と※3	(スピーカ回線１～10)と(スピーカ回線11～15)と (スピーカ回線16～20)に３分割	
※1と※2と※3	(スピーカ回線１～５)と(スピーカ回線６～10)と (スピーカ回線11～15)と(スピーカ回線16～に４分割	

付図7　業務放送設備に設置する場合（ディップスイッチの設定のしかた）

1　ディップスイッチの設定のしかた

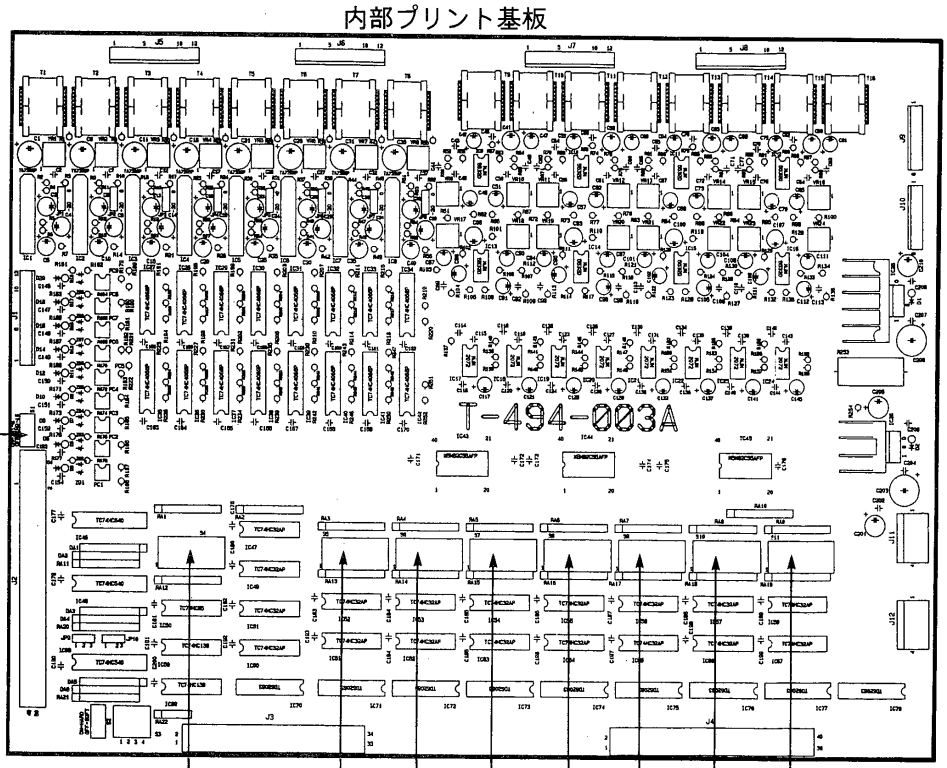
①制御方式の設定変更

●ディップスイッチ「S２」をON→OFFに切換えます。

②各入力に対して、出力先を設定します。出力するところを「ON」にします。

●ディップスイッチ「S４～S11」で設定します。（出荷時は全て「ON」の設定です。）

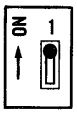
内部プリント基板



S2

① 制御方式の設定スイッチ

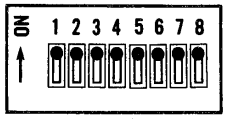
●ディップスイッチを「ON」に切りかえます。
（出荷時OFF）



ON	ハード制御
OFF	ソフト制御

② ハード制御時の出力設定

各ディップスイッチの設定方法



●出荷時すべてONに設定されています。

●出力しない出力系統はOFFにします。

各スイッチの番号１～８は出力系統１～８に対応しています。

出力1	1
出力2	2
出力3	3
出力4	4
出力5	5
出力6	6
出力7	7
出力8	8

S4	S5	S6	S7	S8	S9	S10	S11

各入力毎の設定用ディップスイッチ

前面

●各入力の設定スイッチは右表のとおりです。

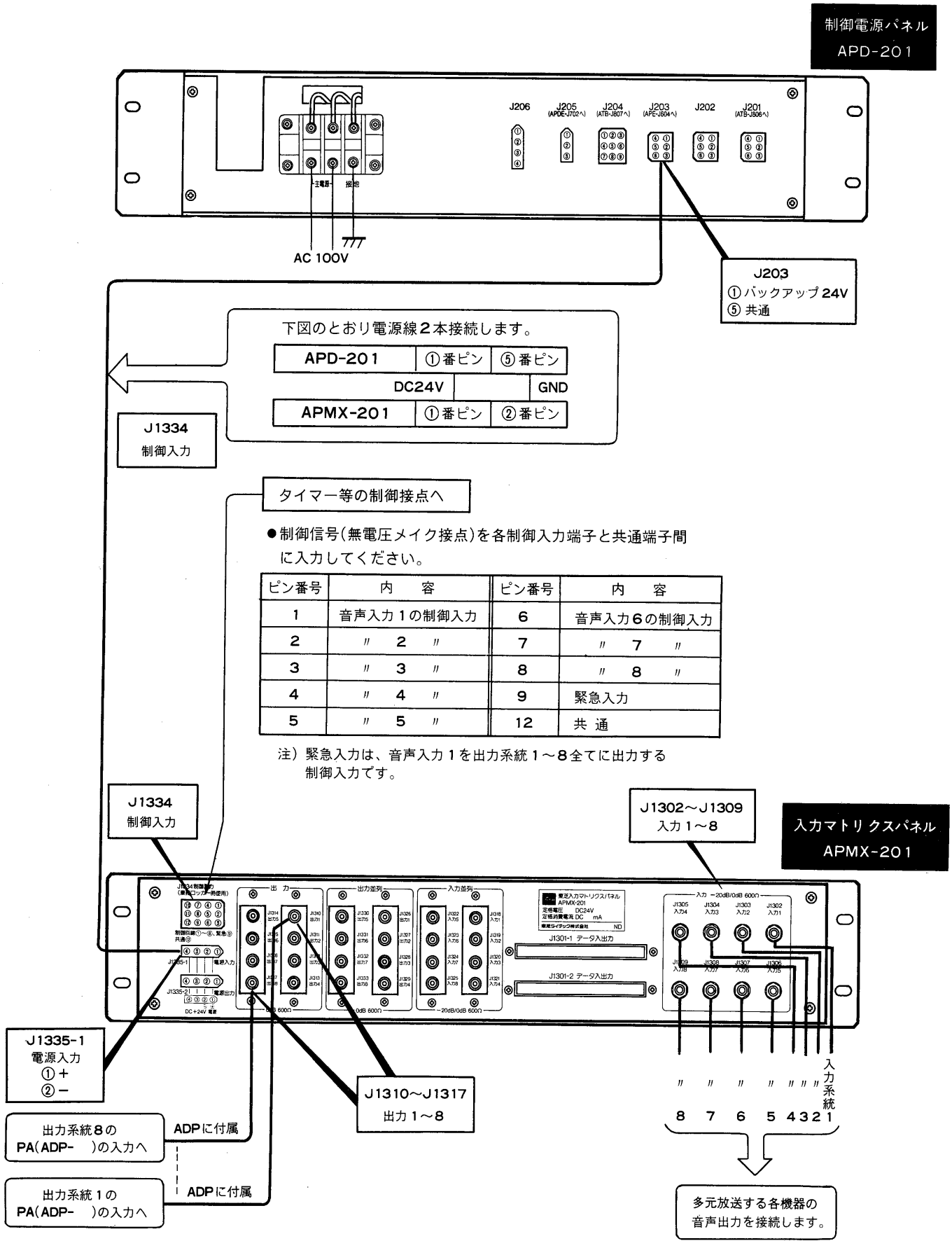
●各ディップスイッチ毎に（各入力毎に）どの系統に出力するかを左表に従って設定します。

S4	入力１用
S5	入力２用
S6	入力３用
S7	入力４用
S8	入力５用
S9	入力６用
S10	入力７用
S11	入力８用

付図８　業務放送設備に設置する場合（接続のしかた）

2　接続のしかた

- ８入力８出力の接続例を下図に示します。
- 入力マトリクスパネルを連結して、入出力を拡張する場合の接続はP15～17を参照してください。
- 接続の詳細については当社へご相談ください。
- 制御入力用のコネクタはオプション(別売）となりますので当社へご依頼ください。



＜生産完了 2006年02月09日＞